

令和7年度 八戸西スマートインターチェンジ地区協議会事務局会議【要旨】

1. 日時及び場所

日 時 令和7年11月20日(木) 14:00~15:10

場 所 八戸市庁別館5階 会議室 A

出席者

団体名	所属名	職名
国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所 (Web 参加)	調査課	課長 計画係長
東日本高速道路株式会社 東北支社	総合企画課	課長代理 担当
	管理事業統括課	担当
	八戸管理事務所 工務	担当課長
青森県 三八地域県民局	地域整備部 道路施設課	課長
八戸商工会議所	中小企業相談所	所長
上長地区町内連合会		会長
八戸市	建設部 道路建設課	次長兼課長 管理 GL 主幹 主査

2. 議事

(1) 供用開始 (H31.3.23) から R7.3.31 までの利用状況について

【R6 地区協議会事務局会議での意見】

八戸是川インターと南郷インターについて、実施計画書の開通後の計画交通量と実績に乖離があるため、推計交通量の根拠を示していただきたい。

【事務局回答】

八戸是川インターチェンジの実施計画出入交通量は、国土交通省が平成 22 年度に実施した一般交通量調査結果から 8,650 台を算出しているが、資料にある八戸是川インターチェンジの実績交通量は、ネクスコ東日本東北支社から情報提供いただいた八戸ジャンクション料金所の交通量 2,250 台となっており、計測箇所に相違があった。そのため、計画交通量と実績に乖離があったものと推測される。

南郷インターチェンジの実施計画出入交通量も国土交通省が平成 22 年度に実施した一般交通量調査結果から 1,050 台を算出しているが、実績は 680 台となっており、実際は想定よりも減少しているのが現状である。

【事務局回答】

説明にもあったが、台数の違いというのは計測箇所の違いがあり、八戸是川インターの実施計画推計台数は、国土交通省様のインターペアの数値を使って計測しており、三陸沿岸道路や無料道路を通った台数も含めての推定交通量となっている。これに対して、NEXCO 様からいただいたデータは八戸ジャンクションの数値になっているため、対象となるインターが違うことから大きな差となっていると考える。

NEXCO 様では是川インターチェンジの数値を持ってないとするれば、実施計画書に基づいて、国交省さんの5年ごとのデータで比較をしていくしかない。あるいは、NEXCO 様からのデータであれば、ジャンクションの年度ごとのデータを使用し、比較ではなく掲載していく形になるので、表記方法を考えなければならないと思っている。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

資料で並んでいるから比較したらどうなるのかと思うが、比較すべきでないのではないかと。比較出来ないインターチェンジが八戸是川だけであれば、資料の実施計画書 8,150 台の上に欄外の注意書き※注2をつけた方がいいと思う。

この数字をだしてしまうと、逆に八戸インターと南郷インターは何で減っているのかという話になってくる。八戸西スマートインターに転換していると確実に言えればいいが、それ以外のインターに含まれている可能性もある。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

八戸インターチェンジの実施計画交通量と実績台数は、それ程差はないと考えて良いと思うが、南郷インターの差が大きい。

当初の計画台数の考え方について、その道路ネットワークの推計値という将来の完成された道路ネットワークを想定するのだが、それと今の現況がどう違うのかというのが一番交通量に影響する。南郷インターの周辺の道路に何か未整備のところがあるなど、そのようなところが一番大きな原因になると思われる。あるいは平成22年のときの推計の段階で22年3月の数字が、今の現況のネットワークに合っていないのではないか。

実施計画書と実績台数を比較すると、全国的にも様々な自治体で支障が出ている。開通してから10年20年経っているようなところがたくさんあるが、このような比較を見せると、どうしても台数の差が見られるようになる。

深掘りできているなら見せて説明した方がいいと思うが、何か判断できない部分やわからない部分が発生するのであれば、不明であるという説明はしない方がいいのではないかと。

【事務局】

実施計画作成時に転換台数や誘発台数をプラスしすぎたという点もあるかもしれないが、別インターチェンジに流れているのではという推測でしかないため、資料の構成を検討したい。

【八戸商工会議所】

この実施計画書の出入交通量というのは、平成22年の交通センサスに基づいて、これくらい伸びるだろうということだたき出した数字ということだが、そのときの根拠の計算方法はあるの

でしょうか。見てもわからないかもしれないが、希望的観測の数字がかなり入っているものか。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

一般的には交通量推計をするコンサルに外注して、平成 22 年時点に調査したときのいわゆる国交省の OD 調査と言われている、どこからどこに行ったかの調査結果を基に、将来平成 42 年、(20 年後)にこういう将来交通量になるだろうと決定する。それを基に八戸西スマートインターができた場合に、どのぐらい交通変化が大きいかを推計された結果になる。

実施計画書の交通量の根拠を求めるとそれなりの調査が必要となるため、資料は、八戸西スマートインターの交通量とその周辺のインターチェンジを含めた交通量の 2 点で作成して良いと思われる。

【事務局】

貴重な意見をいただきましたので、事務局でも資料を探して、答えられるのであれば答えることとしたい。

回答出来ない場合には、八戸西スマートインターチェンジ単体の交通量と周辺インターチェンジを含めた全体交通量の観点で資料を作成する方向で考えたい。

(2) 整備効果について

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

16 ページの観光について、八戸西スマートインターが整備されたことで、観光の観点で客数が増えた、交通量以外の指標でスマートインターの整備前後でこういう効果があったということを定量的に示せた方が美しいと思う。

また、資料に書いてあることは、移動時間が短縮されて、地域活性化に貢献されているのはもともとだが、実際どのくらい整備効果がでているのか。

どのような観点から整備効果を表現できるのか考えていただきたい。すぐできるようなものではないと思うが、ETC2.0 データを使用したり、長期的にいろいろな視点で掘り下げていく必要があると思うが、数字が増加したということが言えたら一番いいと思う。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

地域産業の活性化のところでも、長芋やニンニクの全国シェアが多く、スマートインターができたことで、物流の効率化を図れて、例えば何か便数が増えた、関東への売り上げ出荷仲介料が増えたなど、何かそういう目に見える定量的な効果が言えたら整理としては一番いいと思うので、ご検討いただきたい。

【事務局】

来年度に向け、整備効果が目に見える資料となるよう工夫したい。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

15 ページ目の防災活動の支援について、最大クラスの津波が来たときに環状線が水没するような形になっているが、スマートインターを利用して長根屋内スケート場への物資を運ぶことを考えたときに、是川インターを経由していくという考え方になるのか。それともスマートインターチェンジがあって、例えば南郷インターで反転して八戸インターに降り、そこに物資を運ぶというような考えになるのか、その辺を教えていただきたい。

【事務局】

災害時の被害状況を確認しながら、目的地を設定し、使える IC をルートとして使うというのが基本になり、八戸西スマートインターチェンジから南郷インター経由で八戸インターに向かう方法もあるし、八戸是川インターから行けるルートを使う方法もあると思う。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

八戸西スマートインターチェンジへの誤進入対策について、ご協力をいただきたい。スマートインターチェンジの誤侵入は大きく二つあり、ETC 専用のスマートインターチェンジに、ETC を使ってない現金車両が入ってしまうのが1つ目。

スマートインターチェンジの方向を間違え、上りたいのに下り側に入ってしまう、その逆に入ってしまった場合が2つ目。

スマートインターチェンジは、インターフォンを押して料金所の人と話せるが、そこで間違った旨を伝えると、特別転回というバーがあり、一般道に戻れる仕組みがある。誤侵入の件数について、八戸西スマートインターチェンジが圧倒的に多く、東北地方にあるスマートインターでは500 台に1 台ぐらいなのだが、八戸西スマートインターに関しては、50 台に1 台ぐらいとなっており、10 倍ぐらい多い。

原因として駅に近いことで観光客が多いことが考えられる。普段乗り慣れていない方が運転するレンタカーの ETC 車両が、方向を間違えて誤侵入することがあると思う。

具体的な対策の案として、「ETC 専用です」、「〇〇方面行きたい場合は〇〇から進入ください」というようなチラシや案内図を作成し、それを駅前のレンタカーさんや JR さんに協力してもらって、チラシを置かせてもらうことができればと思う。本日の事務局会議と合わせて、そういったところも検討していただきたい。

18 ページの利用促進方策として、案内標識を立てていただいているが、ここに ETC 専用というシールを貼ることも考えられるので、何かそういった誤進入対策になるものを考えていただければ幸いである。

【八戸商工会議所】

この辺りに住んで土地勘があれば三沢方面、盛岡方面で表示されてわかると思うが、他から来た人はどちらが青森方面なのかわからないと思う。自分も岩手県北上市へ行った時に、大船渡方面や気仙沼方面と書かれており、どちらが仙台方面なのかわからず高速道路に乗れないことがあった。そこにもう一つ仙台方面と表示してあると親切だと思う。全国的にこのような案内標識になっていると思う。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

他のインターでも実際にお客さんから標識に関して、青森市に行く方向はどちらなんだという苦情がきたことがあり、補助看板として簡易看板を追加したことがある。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

基本的に案内誘導標識の設置は道路管理者がやることになるが、どのような名称にするかは基本的に警察と協議をした結果となる。警察の意見を聞いた上で、最も合理的でその地域の人に浸透されている世間一般的に問題ないと思われる名称が使われる。この場合は、警察が問題ないという判断をされた結果となる。

地元の地名をいわれてもわからないことがあるので、県名などを入れるとわかりやすいと思う。

【上長地区町内連合会】

八戸西スマートインターチェンジの利用台数が予定よりもかなり増加して良いことだと思うが、それに伴い2つほどお願いがある。

1つ目は、雪の降り始め最初の日にスリップ事故が発生している。去年もお願いしたが、雪が降った時には除雪や融雪剤散布の対応をしていただきたい。

2つ目は、スマートインターから出てくる車が多くなり、感應式信号で止まる回数がかかなり多いなと思っている。私は毎日通っているが、3回に1回ぐらいは必ず信号で止まることになる。これから冬になり、もっと利用台数が増えてくれば、その信号で国道454号側の車両が止まる回数が増えるため、事故の可能性が高くなる。頻繁に止まる状態になるのであれば、日中に信号がどのくらい変わっているかなどを測ってもらい、歩行者等のことも考慮して何か対策を考えていただきたい。

【事務局】

交通台数などは警察がある程度把握していると思うが、警察が信号の点滅時間や点灯時間を調整している。

状況が変わってきているため、日中に信号がどのくらい変わっているか等を調査・再点検してほしい話があることを警察に伝えたいと思う。

【国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所】

利用促進方策としての案内標識について、実際、八戸西スマートインターの表示標識がどこに設置されているのか把握しているか。

インターから10キロの範囲が本来あり、標識設置例があるが、適正な場所にインター案内が設置されているのか、把握しておいた方がよい。もし足りなければ、県・国・市で設置していくことになる。

標識適正化委員会を開いて、そこで範囲内のここに設置しましょうと決めていると思うが、今後の参考意見である。

【事務局】

案内標識については、調査をしてみたい。

【国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所】

累計台数で例えば 200 万台や 300 万台などのタイミングで記念式典など何か開催する考えはあるか。

【事務局】

市では記念イベント等は考えておりません。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

全国的に何百万台達成とか 100 万台範囲で行っており、8 月に秋田県の横手北スマートインターチェンジで 200 万台達成のセレモニーを行い、横手市長が 200 万台目で利用された方に記念品を手渡した。

弊社からいつぐらいに 200、300 万台になりそうだとということを、ぜひ情報提供させていただきたい。記者の方に取材していただいて記事にしてもらえば、誤進入を含め広報にもなるのでご検討いただければと思う。

【事務局】

台数増加でいくと、毎年約 30 万台で増えているため、今年度、そろそろ 200 万台になっているか過ぎていると思う。

【東日本高速道路株式会社 東北支社】

まずは 300 万台を見据えて何か計画を考えていけたらいいのではないかと思う。

あるいは、今ちょうど 7 年目なので、あと 3 年後に開通 10 周年などの節目、節目を狙って広報活動することもやり方としてはあると思う。

【事務局】

どのようなことが出来るか検討します。

【上長地区町内連合会】

平成の年が何年前かわからなくなるため、資料の文章にも西暦を入れてほしい。

【事務局】

今年度から西暦を記載している箇所もあるが、資料の見せ方を工夫したい。